

或年此九月九日、負任五百餘騎、誘其夷賊を相與

出來て、陣能乃、伎を盡て、うり河に、今日と、つり

菊酒を酌て、眞宴、其日也、君と、尚國此

刺史也、負任、其中心、懸首也、節世を、集り、先

うり、小、余向、其、也、と、後藤内、則明、其、返、布、よ、ん

汝、身、節世を、集り、む、(き、より、)同食を、五日、一、飲、其、食

た、交、度、あり、早、く、小、持、容、其、才、也、と、其、時、負、任、宗、任

良、ホ、悦、て、鼓を、うり、軍、呼、し、て、勢、來、り、津、方、同、鼓を

うり、時を、活、く、り、其、向、て、を、戰、次、に、時、よ、り、前、に、云、面、時、り

至、て、札、入、金、を、至、て、合、戰、を、し、れ、ん、勝、負、ふ、一、負、任、方

小、死、者、百、餘、人、疵、を、被、者、九、十、餘、人、御、方、又、死、者、十

餘、人、疵、を、被、者、十、餘、人、也

安大夫、賴時、の、む、藤原、経清、平、永、衡、と、布、者、あり

大夫、も、て、小、謀、叛、を、は、を、み、く、志、と、成、り、む、其、國、府



安大夫頼時あやすけのむすこ藤原経清ふじわらなるよ平永衡へいながと、事者あり

大夫もて小謀叛こぼうはんをゆるをみく志すと成りむきく國府くにふ

をまゝいまり或者將軍小治あつちのしやうじん云永衡御方へ容せりや

い通らん内うち心こころよはさう免ゆるくあ大夫をわかれ志介しけのゆ伏

乃有謀ありまを亦またく毒害どくがい此こゝらん帝ていより方かた此軍こゝのつゝの有あり概がい

をつちやらん事ことなり也永衡をよれ頼たの司し登あ任に此こゝ郎らう等らう也苗國なほくに

不け下げ向むか志しくあつく恩おんを蒙かて一郡ひとむらを領りやうをらを大夫おほおと心こころ

と成なりく此こゝを國司くにしと大夫と相戦あひあ間ま大夫おほおとの方かたより蒙かて重恩おもひおん

乃ゆ主ぬしを射いを不ふ者也もの次つぎ著ある事ことなり此こゝ甲銀かぎんよりて入り

と長ながし戦いくさの間ま大夫おほおとの兵へいよりみり殺ころしていられ志しと構かまを

事也ことなりも足たりやう小こあれをさうり(志と云將軍しよんじんこの事こと成なり用もちて

永衡ながを切き川がは宗むねとあ系けい郎らう木き四人よににん同おなしれ切きつ麦あ経けい清せい等らう

抱かかて安やすん事こと竊ひそり郎らう木きらうと治ち云い前まへ車くるま此こゝ後のちに坂さか車くるま此こゝに

事也其足やうふれをさうの(と云)將軍この申成用て
永衡を切川宗とあふ郎木四人同ふれ切つ麦佐清等
抱て安ふる 竊又郎木らよ 浩云前車此後ハ坂車此後
云み有り十郎其てよきられぬ我又何自ら死と云郎木
云若う心ふくお軍小仕と思有り 此石 讒言必出未て其
ふらん次早述て本れ如くあふ久小随竹ぬ君獨奥此
肉をらんり 膝を唾ごん甲斐あり 麦佐清又度成
かろししてお軍申云久兵を國府(まろ)して宗此
妻子を棄と見ふ也云お軍是を聞て久は驚て國
を回給ぬり此捕れ小佐清此郎等ハ百餘人を相
あふ久の許(か)めて様此息けをいき次間守孫佐清
を誅得る(ま)し思ふ

を存く 松乃亭(ま)めて家人(ま)す

登壇(ま)件乃 頼良(ま)を誅(ま)ふ(ま)す仍

を誅討す（す）し思ふし

を存く松乃亭の御て家人亦

登任件乃頼良亦を誅討すしをす仍

罰を（す）し治を存せり王事もりす

固あるは又恐ありならず唐太宗皇

を（す）人實城賊志くしれり代々存せり

本朝の藤原利仁鬼神の城をせり時神明力

をある抄給き予又源氏乃一也何ハ備三所設

成事礼給はしむ各曾乃心をふし早く心

を











將軍

美濃家

先任

通利

辰巳

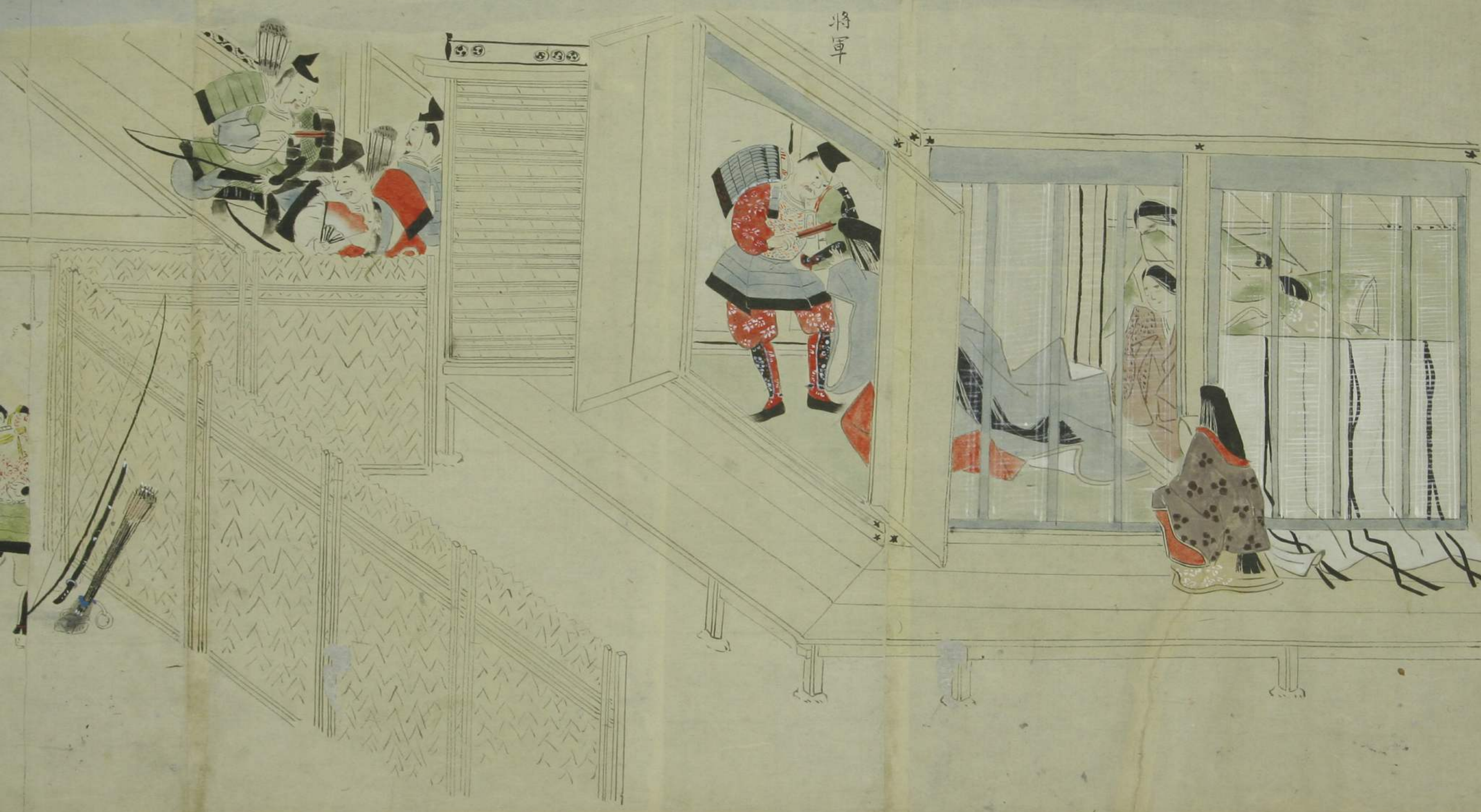
別明

先良

先良

先良

先良



將軍



將軍

別明



茂頼

光任

義家

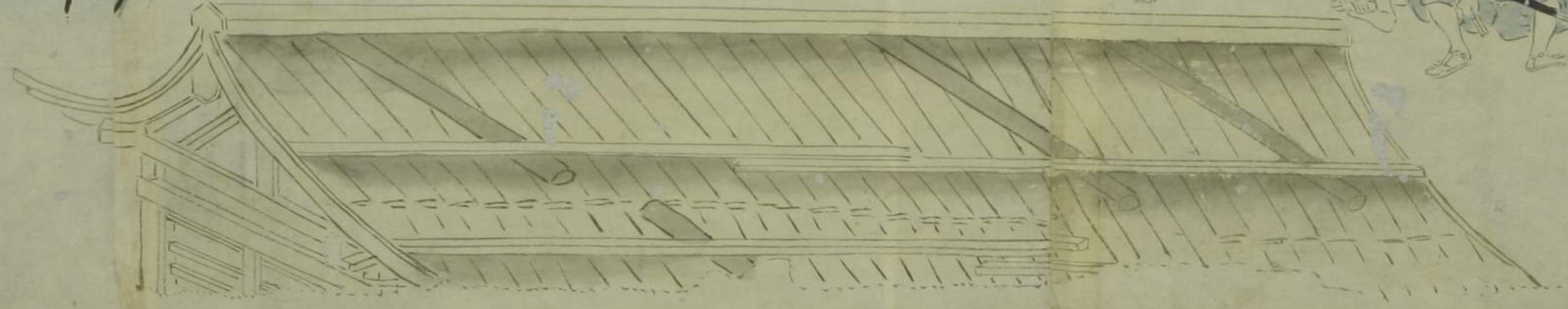
將軍

光房

通

則明

通利





光任

茂頼

光任

光任







元貞

景通

義家

元任



光貞

元貞



純清

永衡



元貞

義家



光任

則明

茂頼

光房

通明

景通

元貞

元貞



永衡





金
乃
行



宗
任

金
乃
行



則
明







茂頼

光房

光任



則明

則位

義家

光任

全為基



通利



全為行

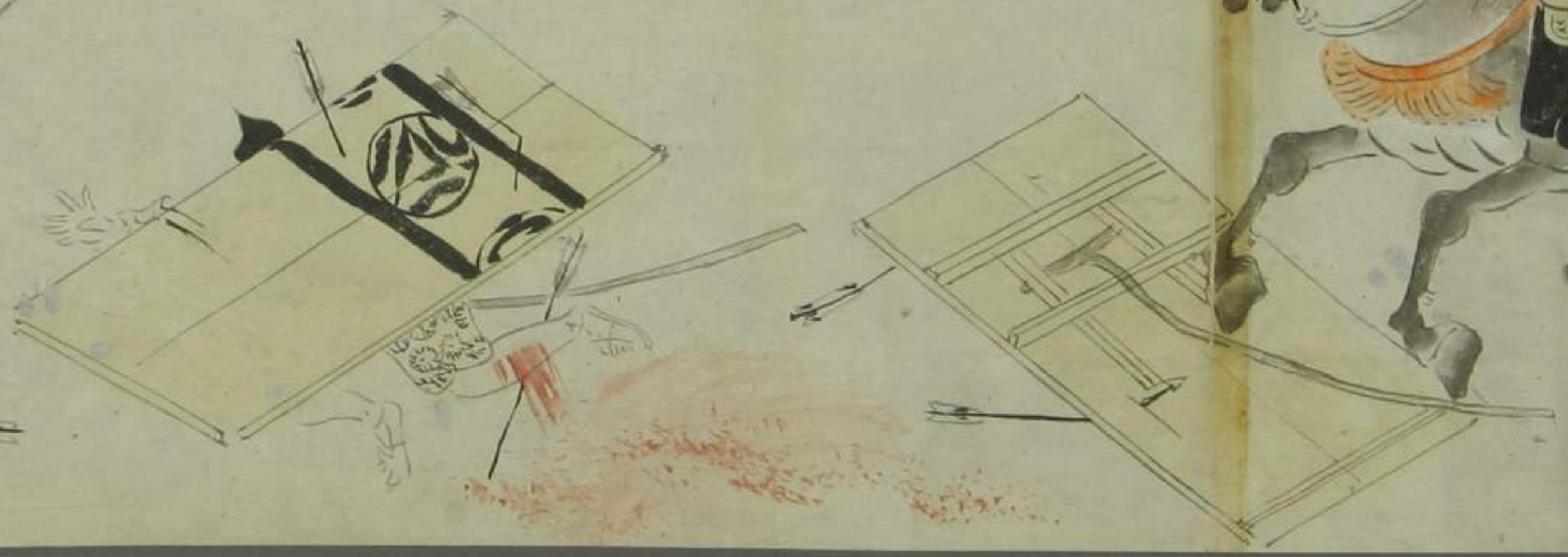


則明

昌通



則位





守任

重任

全為基

景南





義家
將軍
光任